

要 望 書

南九州地域の拠点港湾「八代港」の整備促進について
～ 八代港外港地区国際物流ターミナル改良事業 ～



【令和3年7月21日開催「八代港合同防災訓練」の様子】



【令和3年7月31日開催「みなとオアシス八代」登録証交付式の様子】

令和3年11月
熊本県八代市
八代港整備・活用促進期成会

八代港の整備につきましては、日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼を申し上げます。

さて、昨年は5年前の熊本地震からの創造的復興途上にある中、新型コロナウイルス感染症、そして、令和2年7月豪雨災害とトリプルパンチに見舞われ、現在においても、新型コロナウイルス関連対策と令和2年7月豪雨災害からの創造的復興に向けての取組を、国や県と緊密に連携しながら進めているところでございます。

そのような中、本年1月には八代港と台湾を結ぶ県内初の国際コンテナ定期船が就航しました。台湾航路においては、就航時より順調にコンテナ貨物の取扱量を増やしております。これも貴職をはじめ、各関係者の皆様方のご尽力の賜物であります。

また、本年7月21日には、くまモンポート八代において国土交通省、九州地方整備局、第十管区海上保安本部、熊本県、県港湾建設協会、本市による合同防災訓練が実施されました。熊本県内初の耐震強化岸壁として整備いただきましたクルーズ専用岸壁は、災害時には救護物資等の補給基地として利用が可能となることから、地域の防災機能の強化にもつながるものでございます。

さらには、「みなとオアシス八代」登録証交付式が7月31日に開催されました。国際クルーズ拠点「くまモンポート八代」を含む6施設が「みなとオアシス八代」として登録されたことで、賑わいある交流拠点となり、今後は南九州における国際物流拠点としてだけでなく、人流拠点としても、更なる発展が望まれます。

このような中、八代港の水深14m航路は未だ計画水深が確保されていないことから、現在、大型船舶の入港に際しては、他港で貨物を下ろして入港する「喫水調整」などの輸送コスト増という深刻な課題が解消されておられません。

さらに、世界的な船舶の大型化傾向も顕著であることから、このような輸送コストの削減が図られなければ、今後の利用減少に繋がりがかねないことと危惧しているところであります。

こうした現状から、計画水深が確保され、大型船舶が安定的に入港できることにより輸送コストの削減ができれば、背後立地企業の競争力強化が図られると共に、社業拡大に伴う新たな設備投資や雇用創出、消費者への利益還元など、本市域にとどまらない、広範な地域経済の活性化等の効果が発揮されることとなります。

現在、水深14m航路は鋭意整備を進めていただいておりますが、何卒、当該航路の早期完成に向け、ご配慮いただきますようお願いいたします。

記

一、水深14m航路の早期完成を図ること。

令和3年11月24日

八代市長 中村博生

八代港整備・活用促進期成会長 松本喜一